

PATENT
3377-0130P

(2171)

Applicant: Akirhiro KAWAMURA Conf.:
Appl. No.: 09/963,391 Group: unassigned
Filed: September 27, 2001 Examiner: UNASSIGNED
For: DEVICE, SYSTEM AND METHOD FOR PROVIDING
INFORMATION

RECEIVED

JAN 29 2002

Technology Center 2100

December 19, 2001

LETTER

Assistant Commissioner for Patents
Washington, DC 20231

Sir:

Under the provisions of 35 U.S.C. § 119 and 37 C.F.R. § 1.55(a), the applicant(s) hereby claim(s) the right of priority based on the following application(s):

<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Filed</u>
JAPAN	2000-300315	September 29, 2000

A certified copy of the above-noted application(s) is(are) attached hereto.

If necessary, the Commissioner is hereby authorized in this, concurrent, and future replies, to charge payment or credit any overpayment to Deposit Account No. 02-2448 for any additional fee required under 37 C.F.R. §§ 1.16 or 1.17; particularly, extension of time fees.

Respectfully submitted,

BIRCH, STEWART, KOLASCH & BIRCH, LLP

By 

D. Richard Anderson, #40,439

DRA:11
3377-0130P

Attachment

P.O. Box 747
Falls Church, VA 22040-0747
(703) 205-8000



日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2000年 9月29日

出願番号

Application Number:

特願2000-300315

出願人

Applicant(s):

川村 明宏

RECEIVED

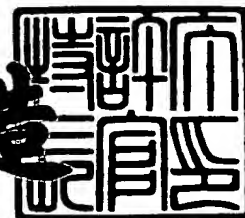
JAN 29 2002

Technology Center 2100

2001年 9月19日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3086496

【書類名】 特許願
【整理番号】 SOK0006
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 G06F 17/00
G09B 19/00

【発明者】

【住所又は居所】 千葉県山武郡大網白里町南飯塚 4 0 5 番 8 号

【氏名】 川村 明宏

【特許出願人】

【識別番号】 500093605

【氏名又は名称】 川村 明宏

【代理人】

【識別番号】 100102406

【弁理士】

【氏名又は名称】 黒田 健二

【選任した代理人】

【識別番号】 100100240

【弁理士】

【氏名又は名称】 松本 孝

【選任した代理人】

【識別番号】 100109276

【弁理士】

【氏名又は名称】 岡本 芳明

【選任した代理人】

【識別番号】 100116573

【弁理士】

【氏名又は名称】 羽立 幸司

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 074159

RECEIVED

JAN 29 2002

Technology Center 2100

特 2 0 0 0 - 3 0 0 3 1 5

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報提供装置、情報提供システム及び情報提供方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 それぞれで決められた時間内に文字を処理することが必要な複数の課題のうちからユーザが克服できる可能性があると推定される課題の情報を提供する情報提供装置であって、

前記各課題に必要な文字数のデータを記憶した記憶手段と、

前記ユーザの前記文字を処理する所定の基礎能力を測定する測定手段と、

前記記憶手段の記憶したデータのうちから前記測定手段が測定した基礎能力で前記決められた時間内に処理可能なデータを検索する検索手段と、

前記検索手段が検索したデータに対応する課題の情報を出力する出力手段とを備えた、情報提供装置。

【請求項 2】 前記出力手段は、表示手段である、請求項 1 記載の情報提供装置。

【請求項 3】 前記基礎能力は、文字を読む能力である、請求項 1 又は 2 記載の情報提供装置。

【請求項 4】 前記課題は、試験時間内に行われる試験である、請求項 1 から 3 のいずれかに記載の情報提供装置。

【請求項 5】 前記課題は、試験日まで開設される試験対策講座である、請求項 1 から 3 のいずれかに記載の情報提供装置。

【請求項 6】 前記課題は、図書館から貸出し期限付きの蔵書である、請求項 3 記載の情報提供装置。

【請求項 7】 前記ユーザに対して前記文字を処理する所定の基礎能力を訓練する訓練手段を備え、

前記測定手段は、前記訓練手段が訓練を行った後の前記ユーザの文字を処理する基礎能力を測定し、

前記検索手段は、前記記憶手段の記憶したデータのうちから前記測定手段が測定した訓練後の基礎能力で前記決められた時間内に処理可能なデータを検索し、

前記出力手段は、前記訓練後に検索されたデータに対応する課題の情報を出力

する、請求項 1 から 6 のいずれかに記載の情報提供装置。

【請求項 8】 情報通信ネットワークと、

前記情報通信ネットワークに接続された請求項 1 から 7 のいずれかの情報提供装置の各手段と、

前記情報通信ネットワークに接続されて前記課題の情報を出力する端末とを備えた、情報提供システム。

【請求項 9】 それぞれで決められた時間内に文字を処理することが必要な複数の課題のうちからユーザが克服できる可能性があると推定される課題の情報を提供する情報提供方法であって、

前記各課題で必要な文字数のデータを記憶しておき、

前記ユーザの前記文字を処理する所定の基礎能力を測定し、

前記記憶したデータのうちから前記測定した基礎能力で前記決められた時間内に処理可能なデータを検索し、

前記検索したデータに対応する課題の情報を出力する、情報提供方法。

【請求項 10】 前記ユーザに対して前記文字を処理する所定の基礎能力を訓練し、

前記訓練を行った後の前記ユーザの文字を処理する基礎能力を測定し、

前記記憶したデータのうちから前記測定した訓練後の基礎能力で前記決められた時間内に処理可能なデータを検索し、

前記訓練後に検索されたデータに対応する課題の情報を出力する、請求項 9 記載の情報提供方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、情報提供装置、情報提供システム及び情報提供方法に関し、特にそれぞれで決められた時間内に文字を処理することが必要な複数の課題のうちからユーザが克服できる課題の情報を提供する情報提供装置、情報提供システム及び情報提供方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、年功序列などの従前の社会構造が崩れつつあり、能力主義などの新たな価値観が台頭し、転換期を迎えている。

【0003】

このような社会構造の変化から資格試験に関心を寄せる人も増加している。さらに、労働省も、雇用保険に5年間加入しているなどの条件を満たす場合には、資格試験対策講座の費用を国が一部負担して優遇するなどの措置を取っており、資格取得を奨励しているような感じもある。

【0004】

このように、資格試験への関心が高くなって奨励がある状況では、資格の数も、国家資格のように公から認められた資格、民間の団体から認められた資格にかかわらず、増えていくことが予想され、難易度の異なる様々な資格が存在することになると考えられる。

【0005】

現段階においては、資格試験の情報は書籍で出回っており、関心を持った個人がその書籍から情報を得て、資格試験合格という課題に向けて努力し、克服した人のみが資格を取得できている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、資格試験での合否は、試験日の試験時間という決められた時間内に問題を解き、合格点以上を取るか否かで決まる。したがって、例えば文字を読むという基礎能力が絶対的に足りない状態で試験に臨めば、どんなに知識がある人でも合格できないことになる。

【0007】

すなわち、試験日における基礎能力がその資格試験に見合わないならば、その資格試験に合格することはできないので、目標とする資格試験を変更して合格を目指すか、基礎能力を向上させて当初の希望する資格試験に見合うようにする必要がある。

【0008】

しかしながら、従来は、単に書籍に資格試験の情報が掲載されているのみで、個々人の基礎能力で克服可能な資格試験の情報を提示できるものではなかった。

【0009】

このことは、決められた時間内に文字を処理することが必要な課題を克服できるかという観点で見れば、資格試験や入学試験のような試験に限らず、現在から試験日までに試験対策講座のテキストを消化できるか、さらには図書館からの貸し出し期限付きの蔵書を期限内に読み終えるか、を判断する場合にも適用できる。

【0010】

そこで、本発明の目的は、新たに、それぞれで決められた時間内に文字を処理することが必要な複数の課題のうちからユーザが克服できる課題の情報を提供する情報提供装置、情報提供システム及び情報提供方法を提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、請求項1にかかる発明は、それぞれで決められた時間内に文字を処理することが必要な複数の課題のうちからユーザが克服できる可能性があると推定される課題の情報を提供する情報提供装置であって、前記各課題で必要な文字数のデータを記憶した記憶手段と、前記ユーザの前記文字を処理する所定の基礎能力を測定する測定手段と、前記記憶手段の記憶したデータのうちから前記測定手段が測定した基礎能力で前記決められた時間内に処理可能なデータを検索する検索手段と、前記検索手段が検索したデータに対応する課題の情報を出力する出力手段とを備えたものである。

【0012】

したがって、複数の課題のそれぞれで必要な文字数のデータが記憶され、そのデータのうちからユーザが決められた時間内に文字を処理することが可能なデータが検索されて出力されるので、ユーザは、出力結果から自分の能力に見合うと推定される課題の提示を受けることになる。

【0013】

請求項2にかかる発明は、請求項1において、前記出力手段は、表示手段であ

るものである。

【0014】

したがって、ディスプレイのような表示手段で表示することで、ユーザは、視覚的に情報提示を受ける。

【0015】

請求項3にかかる発明は、請求項1又は2において、前記基礎能力は、文字を読む能力であるものである。

【0016】

したがって、コミュニケーションに必要とされる、読む、書く、聞く、話す、覚えるといった基礎能力のうちの読む能力についての課題の情報が出力されてユーザに提示される。

【0017】

請求項4にかかる発明は、請求項1から3のいずれかにおいて、前記課題は、試験時間内に行われる試験であるものである。

【0018】

なお、ここでの試験には、資格試験、入学試験その他種々の試験が含まれる。

【0019】

したがって、ユーザにとってその後の将来に大きくかわる試験の中から各々の能力に見合うと推定される試験の情報が提示される。

【0020】

請求項5にかかる発明は、請求項1から3のいずれかにおいて、前記課題は、試験日まで開設される試験対策講座であるものである。

【0021】

したがって、ユーザにとってその後の将来に大きくかわる試験への準備である試験対策講座の中から各々の能力に見合うと推定される講座の情報が提示される。

【0022】

請求項6にかかる発明は、請求項3において、前記課題は、図書館から貸出し期限付きの蔵書であるものである。

【0023】

したがって、ユーザが、期限的に読み終えないような蔵書を借りてしまい読まずに返却したりすることも少なくなり、また、読み終えるために期限を超過して借りてしまうことも少なくなる。

【0024】

請求項7にかかる発明は、請求項1から6のいずれかにおいて、前記ユーザに対して前記文字を処理する所定の基礎能力を訓練する訓練手段を備え、前記測定手段は、前記訓練手段が訓練を行った後の前記ユーザの文字を処理する基礎能力を測定し、前記検索手段は、前記記憶手段の記憶したデータのうちから前記測定手段が測定した訓練後の基礎能力で前記決められた時間内に処理可能なデータを検索し、前記出力手段は、前記訓練後に検索されたデータに対応する課題の情報を出力するものである。

【0025】

したがって、負荷を与えて基礎能力の訓練を行い、訓練後に向上した基礎能力を測定して、記憶されているデータのうちから訓練後のユーザが決められた時間内に文字を処理することが可能なデータが検索されて出力されるので、ユーザは、出力結果から訓練で向上した自分の能力に見合うと推定される課題の情報の提示を受けることになる。

【0026】

請求項8にかかる発明は、情報通信ネットワークと、前記情報通信ネットワークに接続された請求項1から7のいずれかの情報提供装置の各手段と、前記情報通信ネットワークに接続されて前記課題の情報を出力する端末とを備えたものである。

【0027】

したがって、情報通信ネットワークを利用することにより、課題の種類を多様にできるとともに、各種類における課題の数も多くでき、多くのユーザにとって真に必要な課題の情報を提示できる。

【0028】

請求項9にかかる発明は、それぞれで決められた時間内に文字を処理すること

が必要な複数の課題のうちからユーザが克服できる可能性があると推定される課題の情報を提供する情報提供方法であって、前記各課題で必要な文字数のデータを記憶しておき、前記ユーザの前記文字を処理する所定の基礎能力を測定し、前記記憶したデータのうちから前記測定した基礎能力で前記決められた時間内に処理可能なデータを検索し、前記検索したデータに対応する課題の情報を出力するものである。

【0029】

したがって、請求項1と同様に、複数の課題のそれぞれで必要な文字数のデータが記憶され、そのデータのうちからユーザが決められた時間内に文字を処理することが可能なデータが検索されて出力されるので、ユーザは、出力結果から自分の能力に見合うと推定される課題の提示を受けることになる。

【0030】

請求項10にかかる発明は、前記ユーザに対して前記文字を処理する所定の基礎能力を訓練し、前記訓練を行った後の前記ユーザの文字を処理する基礎能力を測定し、前記記憶したデータのうちから前記測定した訓練後の基礎能力で前記決められた時間内に処理可能なデータを検索し、前記訓練後に検索されたデータに対応する課題の情報を出力するものである。

【0031】

したがって、請求項7と同様に、負荷を与えることによる基礎能力の訓練を行い、訓練後に向上した基礎能力を測定して、記憶されているデータのうちから訓練後のユーザが決められた時間内に文字を処理することが可能なデータが検索されて出力されるので、ユーザは、出力結果から訓練で向上した自分の能力に見合うと推定される課題の提示を受けることになる。

【0032】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好ましい実施の形態を、図面に基づき説明する。

【0033】

図1は、本発明の実施の形態にかかる情報提供装置を示した概略ブロック図である。

【 0 0 3 4 】

情報提供装置 1 は、それぞれで決められた時間内に文字を処理することが必要な複数の課題のうちからユーザ 2 が克服できる可能性があると推定される課題の情報を提供する装置であり、記憶部 3 と、測定部 7 と、検索部 9 と、出力部 1 1 とを備える。

【 0 0 3 5 】

記憶部 3 は、各課題 5 で必要な文字数のデータを記憶している。測定部 7 は、ユーザの文字を処理する所定の基礎能力、具体的には例えば文字を読む能力を測定する。検索部 9 は、記憶部 3 に記憶されたデータのうちから測定部 7 が測定した基礎能力で各課題で決められた時間内に処理可能なデータを検索する。出力部 1 1 は、検索されたデータに対応する課題の情報をユーザ 2 に対して出力する。ここでの出力の形式は、ディスプレイなどの表示部 1 3 による画面表示としているが、プリンタなどの印字によるものでもよい。

【 0 0 3 6 】

図 2 は、課題が一例としての試験時間内に行われる試験の場合を説明するための図である。

【 0 0 3 7 】

試験には資格試験や入学試験などがあり、この試験は試験時間 T 1 のように決められた所定の時間内に行なわれるのが通常である。そして、現在の試験は、文字による問題文を受験者に読ませ、それに対して書いて答える形式のことが多い。

【 0 0 3 8 】

そこで、基礎能力としての例えば文字を読む能力に着目すると、試験時間 T 1 の時間内で問題文を読むことに割り当てることが可能な時間 T 2 は、ある程度決められてしまう。これは、読む時間以外に、考える時間、解答を書く時間などが必要なためである。したがって、試験という課題に対して、文字を処理する基礎能力としての読む能力で処理できる時間が決められた時間 T 2 であり、試験という課題を克服して合格するには、受験者は、試験当日に問題文を時間 T 2 内に読み終えるというのが一つの目安になる。

【0039】

なお、上記内容は、説明の便宜上、読む能力にウエイトを置いているが、その他の文字を処理する能力、書く能力、問題文の語彙を把握して記憶して処理する能力にウエイトを置いたものでもよく、それらが複合したものを文字を処理する能力として捉え、試験時間T1を決められた時間として捉えるように、より試験の現実に沿ったものの方が好ましい。

【0040】

また、試験は、上記のように問題文を読ませて、解答を書いて答える以外の形式もあるので、例えば答え方が書く方式であるか否かを問わず例えば英語の検定試験のようにヒアリング形式で問題を把握させる場合には聞き取り能力を基礎能力とし、問題の出題の仕方が読ませる方式であるか否かを問わず面接のように話す能力を基礎能力としてもよい。

【0041】

さらに、試験は、1科目とは限らず、複数の科目の場合が多いので、各科目ごとに文字を処理する能力を複合化して試験時間T1を決められた時間として捉え、さらに試験合格という課題を克服するという観点から全科目での合否を捉えることが好ましい。

【0042】

そして、情報提供装置1は、試験という数多くの課題の中から、現段階のユーザ2が合格できる可能性のあると推定される資格試験名など課題の情報を提供する。

【0043】

なお、現実の試験は、当日受けてみなければ合否は判明しないので、ここでの試験とは、過去の試験問題の問題文の文字数と模範解答の文字数とを利用したものや、本番の試験を想定した模試での問題文の文字数と模範解答の文字数を利用したものとすればよい。

【0044】

図3は、課題が他の例としての現在から試験日まで開設される試験対策講座の場合を説明するための図である。

【0045】

図2では、試験日当日の試験を課題としたが、試験に合格するには努力して準備を行う必要があり、その準備の一つとして試験対策講座がある。

【0046】

この試験対策講座においても、現在から試験当日までの講座受講可能期間T3という限られた期間内で、日々の生活での講座受講以外に必要な時間などを除き、その講座で用いられるテキストを基礎能力の一つとしての読むことに割り当てることの可能な時間T4がある程度決められてくる。したがって、試験対策講座も、試験の場合と同様に考えることができる。

【0047】

そして、情報提供装置1は、試験対策講座という多くの課題の中から、現段階のユーザが試験日までに消化して終了させる可能性のある講座名の情報を提供する。

【0048】

なお、試験対策講座の場合は、その講座で用いられるテキストの文字数と模範解答の文字数を利用すればよい。

【0049】

また、試験合格の準備として、試験対策講座を活用する場合を説明したが、市販の問題集を活用するといった場合にも、その問題集に割ける時間を割り出し、同様にして、試験日までに消化して終える可能性のある問題集名の情報を提供するようにしてもよい。

【0050】

図4は、課題がさらに他の例としての図書館から貸出し期限付きの蔵書の場合を説明するための図である。

【0051】

学校の図書館や国会図書館などの各種の図書館では、通常、貸出し期限を設定して蔵書を貸し出している。この場合も、ユーザから見れば、借りた日から返却日までの貸出し期間T5のうち、読書に割くことの可能な時間T6がある程度決められてくる。したがって、この場合も、上記試験や試験対策講座の場合と同様

に考えることができる。

【0052】

そして、情報提供装置1は、蔵書という多くの課題の中から、現段階のユーザが返却日までに読み終える可能性のある蔵書名の情報を提供できる。その結果、ユーザは、読み終えて返却というサイクルで図書館を利用でき、このような図書館の利用が行なわれることで、図書館側も、貸し出し期限の管理を行い易い。

【0053】

なお、ここでの課題は、本を読むことであるので、基礎能力としては文字を読む能力に限れば十分であるが、その文字の種類については限定されず、洋書でも和書でもよい。

【0054】

図5は、図1の情報提供装置の動作を説明するためのフローチャートである。

【0055】

以下、図2で説明したように課題が試験で、基礎能力を読む能力とした場合の情報提供装置1の動作を説明する。

【0056】

ステップST1において、過去の試験の問題の文字数が試験ごと（科目ごと）にデータ化されて記憶される。この文字数データは、記憶部3に記憶される。

【0057】

例えば、現行の弁理士試験の多肢試験であれば、必須5科目について、図6に示すように文字数データが記憶される。すなわち、特許法について、平成12年度の問題の文字数が20,000文字、平成11年度の問題の文字数が18,000文字など各年度の問題の文字数、さらには過去の問題の平均の文字数がデータ化されて記憶される。

【0058】

同様に、実用新案法、意匠法、商標法、条約類についても、問題の文字数がデータされて記憶される。

【0059】

ステップST2において、ユーザの文字を読む能力が測定される。以下、測定

手法について説明する。

【0060】

まずは測定部7の画面17に「スペースキーを押すと文章がでてくるので読み始めて下さい。そして、読み終えたら再びスペースキーを押して下さい。」というメッセージが表示される。ユーザが指示にしたがってスペースキーを押すと、画面17に図7に示すような「我輩は猫である。……。」という文章が表示され、読み終えた後に再度スペースキーを押すと、図8に示すような測定結果を示す画面17が表示されて、測定が行なわれる。

【0061】

ステップST3において、データ化して記憶された文字数データの中から、測定した能力で各試験ごとの時間T2内で読み終えて文字を処理できるデータが検索される。この検索は、検索部9が、測定部7から受け取った測定データを基にして記憶部3に記憶された文字数データを検索することで行なわれる。

【0062】

弁理士試験の多肢試験を例として説明する。このユーザは、読書スピードが分速600文字なので、3時間の試験時間で、 $3 \times 60 \times 600 = 108,000$ 文字が最高に読める文字数となる。そこで、図6の5科目すべての文字数は、過去の平均で、88,000文字であり、このユーザは、試験時間内に問題文を読み終えることができる。したがって、このユーザは、問題に答える知識を得るように努力すれば、試験時間内に問題文を把握しながら読み終える可能性があることになる。

【0063】

これに対して、図8に示したように、通常400文字／分の半分の読書スピードしかない人が、弁理士試験の多肢試験を受験した場合を想定すると、この人の読書スピードは200文字なので、3時間の試験時間で、 $3 \times 60 \times 200 = 36,000$ 文字が最高に読める文字数となる。したがって、この人は、試験時間内に問題文を読み終えることができず、合格の可能性が極めて低いものになってしまう。

【0064】

ステップ S T 4 において、出力部 1 1 としての表示部 1 3 が、検索されたデータに対応する課題、すなわち資格試験名などの情報をユーザ 2 に出力表示する。すなわち、上記の説明により、このユーザの場合には、弁理士試験の多肢試験は、文字を読む基礎能力は足りているので、努力により合格できる可能性があると推定される。

【 0 0 6 5 】

このようにして、ユーザ 2 は、出力結果から自分の能力に見合う資格試験などの提示を受けることになるので、克服できる可能性が十分にあることを認識しながら試験合格のための努力を意欲的に行うことができる。

【 0 0 6 6 】

その結果、現状で自分の能力に見合わない資格試験を選択して、克服の可能性が不可能に近いほど厳しいにもかかわらず努力をし、克服できないという結果が出てはじめて試験の難しさを認識するといった状態を回避でき、試験の難易度に見合う能力を身につけるなどの事前の対処も可能になる。

【 0 0 6 7 】

図 9 は、本発明の実施の形態にかかる他の情報提供装置の概略ブロック図である。

【 0 0 6 8 】

図 1 と異なる部分は、情報提供装置 1 4 が、訓練部 1 5 を備えていることである。訓練部 1 5 は、ユーザ 2 に対して、文字を処理する基礎能力を向上させる訓練を行うものである。

【 0 0 6 9 】

図 1 0 は、図 9 の情報提供装置の動作を説明するためのフローチャートである。

【 0 0 7 0 】

ステップ S 1 は、図 5 のステップ S T 1 と同じであるため説明を省略する。

【 0 0 7 1 】

ステップ S 2 において、訓練部 1 5 による訓練が行なわれる。この訓練は、ユーザ 2 に対して負荷を加えることで行なわれる。

【0072】

以下に、鋭意研究を重ねた結果得られた訓練手法の一例を説明する。ある文章を画面上で負荷がかかるスピードでスクロールさせ、そのスピードについていけるように努力させながらユーザ2に文章を読ませる。

【0073】

この際のスピードは、訓練前の測定データを基礎にして設定され、ついていくことが無理かもしれないと思われるような設定である。

【0074】

次に、同じ文章を画面上で相当に大きな負荷がかかるスピードでスクロールさせ、そのスピードについていけるようにユーザ2に努力させる。この際のスピードは、ついていくことがほぼ無理であると思われるようなスピードに設定される。

【0075】

次に、同じ文章を画面上で1回目と2回目との中間のスピードでスクロールさせ、このスピードでついていけるようにユーザ2に努力させる。このスピードは、1回目に比べて早くて負荷が大きいはずであるが、2回目に高速を体験しているため、意外に楽に感じるスピードになっている。

【0076】

すなわち、文章をスクロールさせてユーザ2に見せている時間は、1回目、2回目、3回目が、それぞれ長時間、短時間、中間時間であり、3つのスピードの関係は、それぞれが低速、高速、中速である。

【0077】

なお、訓練は、上記に限らず、視野を広げる訓練などを行ってもよく、種々の訓練を組み合わせを行ってもよい。

【0078】

ステップS3からステップS5は、図5のステップST2からステップST4と同様であるため説明を省略する。

【0079】

このように、負荷を与えることによる読む能力の訓練を行い、訓練後に向上し

た能力を測定して、記憶されているデータのうちから訓練後のユーザが決められた時間内に文字を処理することが可能なデータが検索されて出力される。

【0080】

したがって、ユーザは、出力結果から訓練で向上した自分の能力に見合う資格試験名の提示を受けることになるので、訓練により選択の幅が広がった資格試験名の中から選択して、希望を満たすことで合格による満足の度合いが大きな資格取得に向かってより意欲的に努力できる。

【0081】

図11は、本発明の実施の形態にかかる情報提供システムの概略ブロック図である。

【0082】

この情報提供システム19では、情報通信ネットワーク21が使われている。情報通信ネットワーク21には、サーバ23とユーザ端末25が接続されている。

【0083】

サーバ23には、情報提供装置1(14)の記憶部3と検索部9とが備えられている。

【0084】

ユーザ端末25には、情報提供装置1(14)の測定部7と訓練部15と出力部11とが備えられている。

【0085】

このように情報通信ネットワーク21を使うことで、課題の種類を多様にできるとともに、各種類における課題の数も多くでき、多くのユーザにとって真に必要な課題の情報を提示できる。その結果、情報提供のニーズが高まり、時を経るごとに充実したシステムを構築できる。

【0086】

なお、本発明は上記した実施の形態に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載した技術思想の範囲内において種々の変更が可能なのはいうまでもない。

【 0 0 8 7 】

【 発 明 の 効 果 】

請求項 1 及び 9 の発明によれば、複数の課題のそれぞれで必要な文字数のデータが記憶され、そのデータのうちからユーザが決められた時間内に文字を処理することが可能なデータが検索されて出力されて、ユーザは、出力結果から自分の能力に見合うと推定される課題の提示を受けることになるので、その課題を克服できる可能性が十分にあることを認識しながら課題を克服するための努力を意欲的に行うことができる。その結果、現状で自分の能力に見合わない課題を選択して、克服の可能性が不可能に近いほど厳しい課題に対して努力をし、克服できないという結果が出てはじめて課題を認識するといった状態を回避でき、課題に見合う能力を身につけるなどの事前の対処も可能になる。

【 0 0 8 8 】

請求項 2 の発明によれば、ユーザは、認識する上で 8 0 パーセント近くを占める視覚によって提示された情報を認識できるので、情報の把握を正確で早く容易に行うことができる。

【 0 0 8 9 】

請求項 3 の発明によれば、コミュニケーションに必要な読む、書く、聞く、話す、覚えるのような基礎能力のうちの読む能力についての課題の情報が出力されてユーザに提示される。文字についての課題が、問題文などの文字による文章を読んで答えることが多いので、読む能力で課題を克服できるかを判断して、克服できる可能性があると推定される課題の情報を提示することは、ユーザにとって大きな判断材料の情報を得ることになる。

【 0 0 9 0 】

請求項 4 の発明によれば、ユーザにとってその後の将来に大きくかわる試験の中から自分の能力に見合う試験の情報が提示されるので、ユーザは、合格という克服の見込みのある試験を選んで、その試験に向けた努力を意欲的に行うことができる。

【 0 0 9 1 】

請求項 5 の発明によれば、ユーザにとってその後の将来に大きくかわる試験

への準備である試験対策講座の中から自分の能力に見合う講座の情報が提示されるので、ユーザは、試験合格に必要な準備として克服の見込みのある講座を選んで、その講座を消化してついていきながら終了するという努力を意欲的に行うことができる。

【0092】

請求項6の発明によれば、ユーザにとって期限的に読み終えないような蔵書を借りてしまって、読まずに返却したりすることも少なくなり、また、読み終えるために期限を超過して借りてしまうことも少なくなり、ユーザは、読み終えて返却というサイクルで図書館を利用できる。さらに、このような図書館の利用が行なわれることで、図書館側も、貸し出し期限の管理を行い易い。

【0093】

請求項7及び10の発明によれば、負荷を与えることによる基礎能力の訓練を行い、訓練後に向上した基礎能力を測定して、記憶されているデータのうちから訓練後のユーザが決められた時間内に文字を処理することが可能なデータが検索されて出力されるので、ユーザは、出力結果から訓練で向上した自分の能力に見合うと推定される課題の提示を受けることになるので、訓練により選択の幅が広がった課題の中からを選択して、克服による満足の度合いが大きな課題に対してより意欲的に努力できる。

【0094】

請求項8の発明によれば、情報通信ネットワークを利用することにより、課題の種類を多様にできるとともに、各種類における課題の数も多くでき、多くのユーザにとって真に必要な課題の情報を提示できるので、情報提供のニーズがより高まり、時を経るごとに充実したシステムを構築できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の形態にかかる情報提供装置を示した概略ブロック図である。

【図2】

課題が一例としての試験時間内に行われる試験の場合を説明するための図である。

【図 3】

課題が他の例としての現在から試験日まで開設される試験対策講座の場合を説明するための図である。

【図 4】

課題がさらに他の例としての図書館から貸出し期限付きの蔵書の場合を説明するための図である。

【図 5】

図 1 の情報提供装置の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 6】

図 1 の記憶部に記憶された文字数データの一例の状態を示した図である。

【図 7】

図 1 の測定部でユーザの文字を読む能力を測定するための測定画面の図である。

【図 8】

ユーザの文字を読む能力の測定結果を表示する画面の図である。

【図 9】

本発明の実施の形態にかかる他の情報提供装置の概略ブロック図である。

【図 1 0】

図 9 の情報提供装置の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 1】

本発明の実施の形態にかかる情報提供システムの概略ブロック図である。

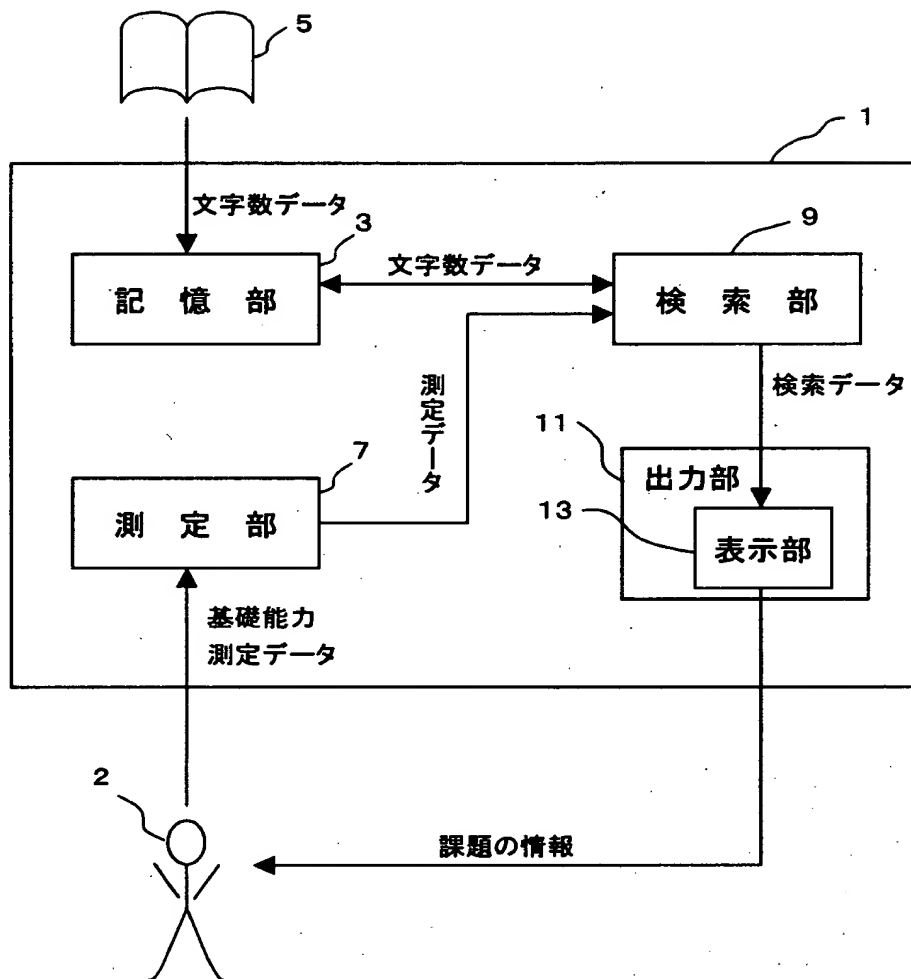
【符号の説明】

- 1、1 4 情報提供装置
- 3 記憶部
- 5 課題
- 7 測定部
- 9 検索部
- 1 1 出力部
- 1 3 表示部

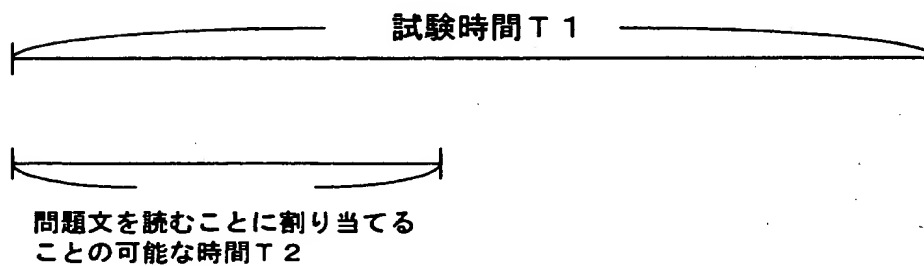
- 1 5 訓練部
- 1 9 情報提供システム
- 2 1 情報通信ネットワーク
- 2 5 ユーザ端末

【書類名】 図面

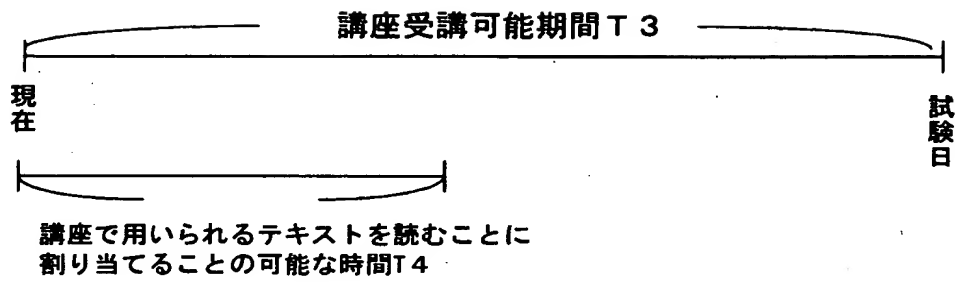
【図 1】



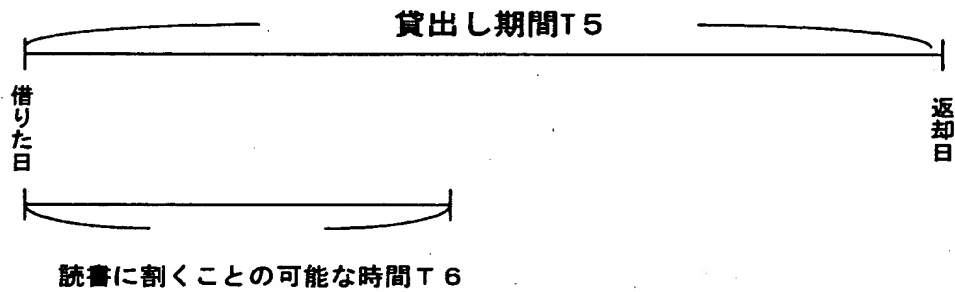
【図 2】



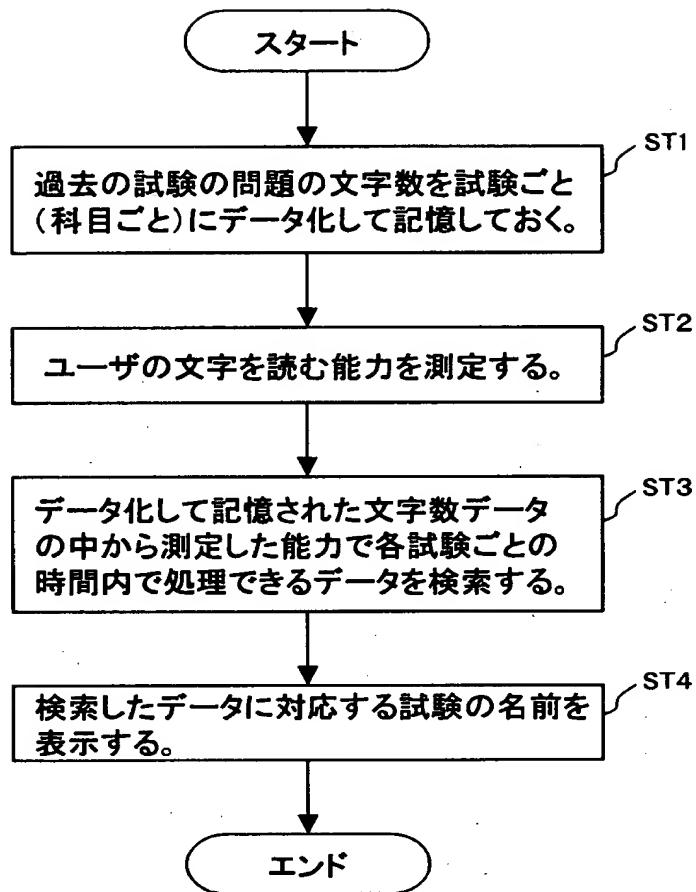
【図 3】



【図 4】



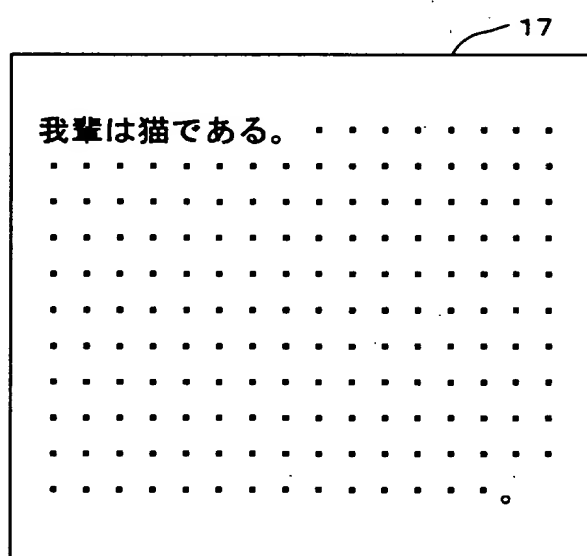
【図 5】



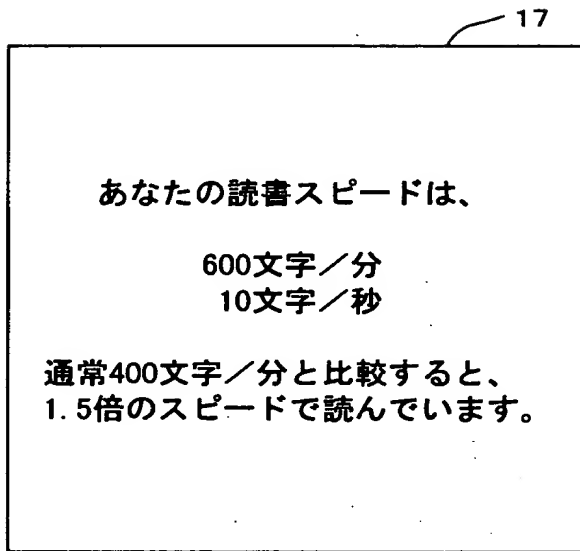
【图 6】

記憶部		
特許法	特許法平成12年度の問題の文字数	20,000
	特許法平成11年度の問題の文字数	18,000
	⋮	
	特許法過去の問題の平均の文字数	20,000
実用新案法	実用新案法平成12年度の問題の文字数	16,000
	⋮	
	実用新案法過去の問題の平均の文字数	16,000
意匠法	意匠法平成12年度の問題の文字数	12,000
	⋮	
	意匠法過去の問題の平均の文字数	12,000
商標法	商標法平成12年度の問題の文字数	18,000
	⋮	
	商標法過去の問題の平均の文字数	18,000
条約類	条約平成12年度の問題の文字数	22,000
	⋮	
	条約過去の問題の平均の文字数	22,000

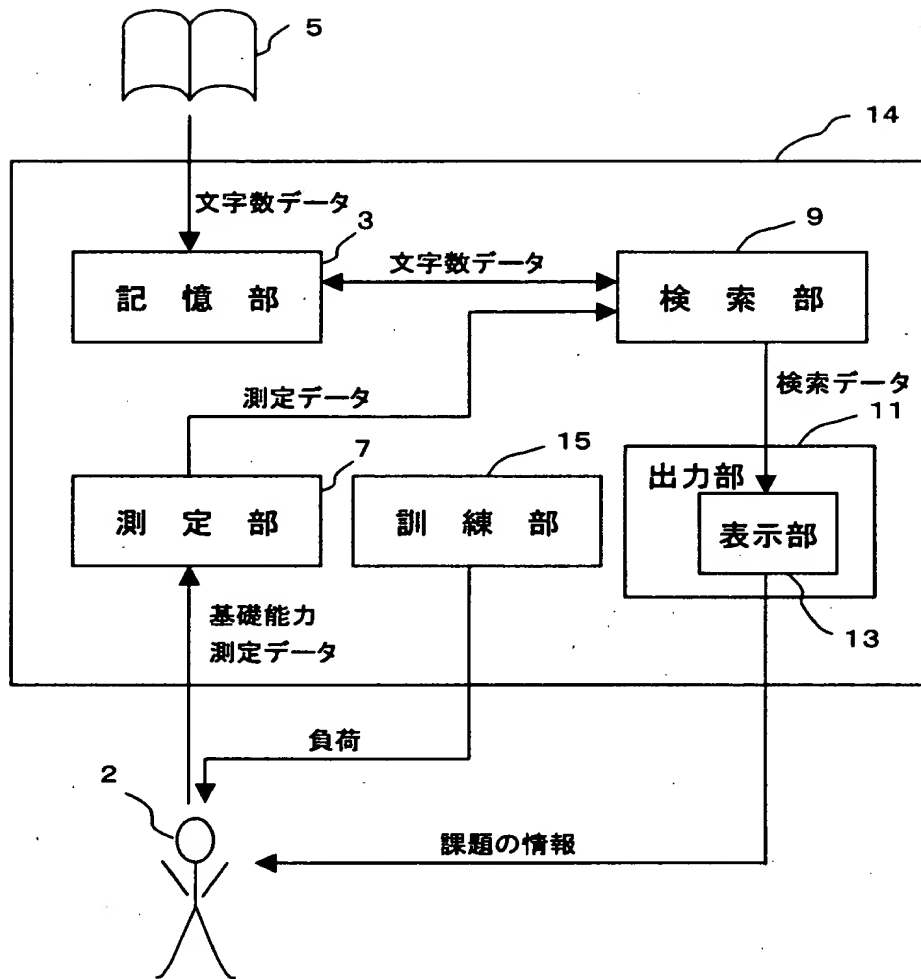
【图 7】



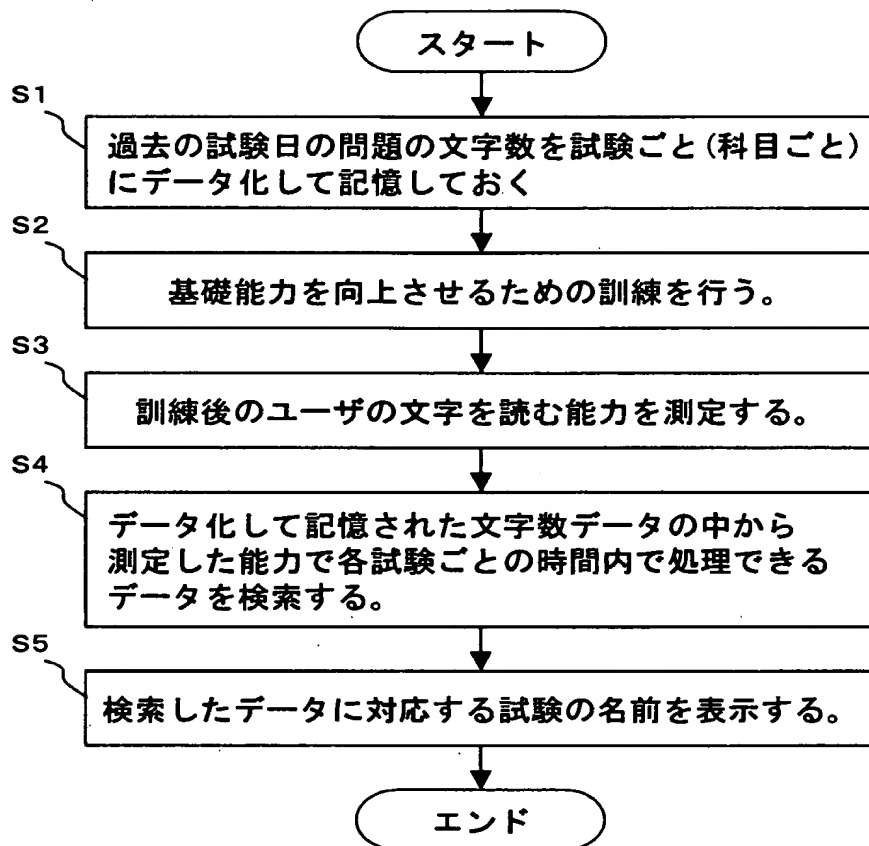
【図 8】



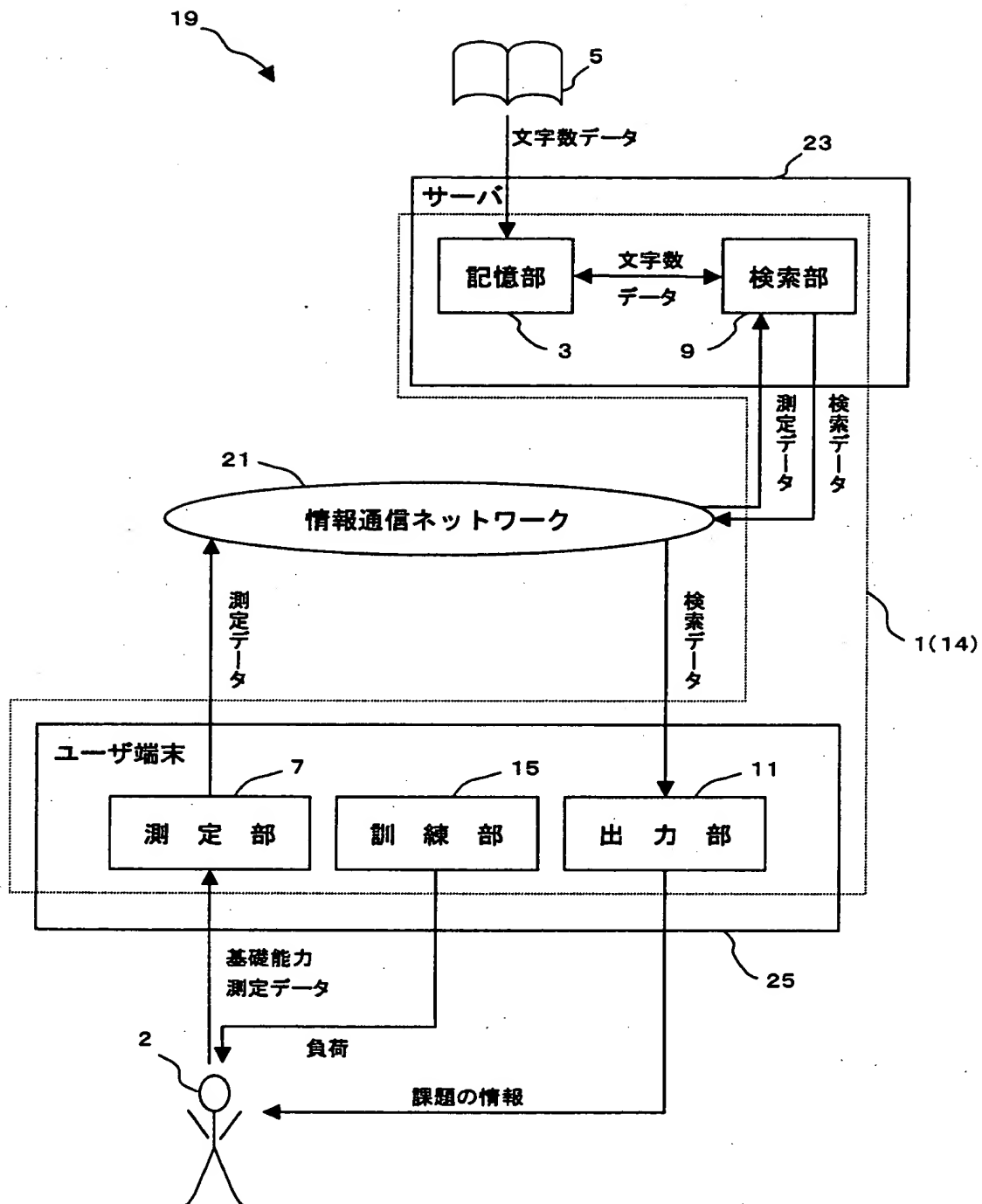
【図9】



【図10】



【図11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 それぞれで決められた時間内に文字を処理することが必要な複数の課題のうちからユーザが克服できる可能性があると推定される課題の情報を提供する情報提供装置、情報提供システム及び情報提供方法を提供する。

【解決手段】 情報提供装置 1 では、記憶部 3 には試験という課題 5 の問題文の文字数データが記憶されており、測定部 7 がユーザ 2 の文字を読む能力を測定して、検索部 9 が測定結果から試験の決められた試験時間内で読むことに割り当てることができる時間に読み終える試験のデータを検索する。検索結果は、出力部 11 としての表示部 13 がユーザ 2 に対して試験名という形式で出力される。そして、ユーザ 2 は、数多くの試験の中から合格の可能性があると推定される試験についての情報を得ることができる。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-300315
受付番号	50001268561
書類名	特許願
担当官	第七担当上席 0096
作成日	平成12年10月 3日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成12年 9月29日
【特許出願人】	
【識別番号】	500093605
【住所又は居所】	千葉県山武郡大網白里町南飯塚405番8号
【氏名又は名称】	川村 明宏
【代理人】	申請人
【識別番号】	100102406
【住所又は居所】	東京都千代田区平河町2丁目2番1号 平河町共和ビル3階 黒田特許事務所
【氏名又は名称】	黒田 健二
【選任した代理人】	
【識別番号】	100100240
【住所又は居所】	東京都千代田区平河町2丁目2番1号 平河町共和ビル3階 黒田特許事務所
【氏名又は名称】	松本 孝
【選任した代理人】	
【識別番号】	100109276
【住所又は居所】	東京都千代田区平河町2丁目2番1号 平河町共和ビル3階黒田特許事務所
【氏名又は名称】	岡本 芳明
【選任した代理人】	
【識別番号】	100116573
【住所又は居所】	東京都千代田区平河町2丁目2番1号 平河町共和ビル3階 黒田特許事務所
【氏名又は名称】	羽立 幸司

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [500093605]

1. 変更年月日	2000年 2月14日
[変更理由]	新規登録
住 所	千葉県山武郡大網白里町南飯塚405番8号
氏 名	川村 明宏